



Title	国民社会の研究 第11巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1961-03-16
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77620
Type	manuscript
Note	国民社会の観点よりみた都市機能：都市農村の機能論的考察 第2巻 『鈴木栄太郎著作集7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
File Information	I014_0111.pdf



[Instructions for use](#)

11

NOTE BOOK

Made of paper

Specially prepared in Japan

國民社會の研究
第十一卷

昭和三十六年十月一日

M
特
20

久美堂特製
¥20

A-NO.3

MUSASHI

11

古来の口家論の反省を以て核討

アリストテリス

フロイト

マキャベリ

トーマス・ペイン

統治する者とされるものとの関係としての遠
及がとこそを進められたか

口家を一つの既成の文化の型とと考え

口家はもう元には違ひ違ひするの如きない文
と見よ考えたり即ち考の様に成るし考居
しつゝはあよかるれが考居すの考に考居すの
考居すの考居すの考居すの考居すの考居すの
考居すの考居すの考居すの考居すの考居すの
考居すの考居すの考居すの考居すの考居すの

自由な我若多政者意義者の考えの根

これよりして

対内統治の必要のみをおこす筈はない。
外対守衛の必要が先づおこる。その
為には対内統治も必要なりなりとの
思はれぬ。

□家の最も限機能

□家^{本来}は□民^{対外的な}の保護^の為の集團

である。保護の為に必要なる統治を常
時行^ゆふ。法律は常に統治するは必要の爲に
生ずるものである。

保護し統治す。実力者は少数の權
力者群に与りなかれていゝ傑物であ
る。援助と道が統治の爲の組織や
手順を定めて、法律法制がその現は
れである。

援助と道の制定す。法律や制を以
て民を保護せしむる。又是の爲に
民を自由に動員するが爲である。

に合理的な又公正な組織や活動を計
画するに必要である。但し彼等自身
及び彼等が援助し奉仕する者が
有利な分配を受けようとする態度
が急務である。はな。

口民 汪名 汪名 汪名

苑四 苑四 苑四

大校 大校 大校

汪个 汪个 汪个

一九五二

ブルジョア的形態経済とプロレタリア的

社会経済学と改良社会経済学

人口経済的形態より社会経済学

の発展には相互作用が中心に

由致であるが、人口の同質異質

論 (トロツキの) がこの次に由致

あり、人同国々の同質異質

は更に左の者の階層に由致する

る。異質の人間同の国々の増加

と共に都市化が成長する。村落

と都市の別は人口経済的形態

より社会経済的形態へ向った

この次に取られる最大の革命的

6

双
展
の
あ
。

口宗此征期起型説と協力の解

統治関係の起原は支配せんとす。強カ

者の意志によらざるも被支配を望む弱

者の意志希願による方かえ下あよと考へ

れど其れとし、恐らく多くの場合民衆の

二の意志は同時に働くものであつて

其の何れの一にのみよると見よ可也

ては無い。あはれは甲の心か、又は乙の心か、
被支配的である

これ等の二の意志は存すところ

に統治や支配に於ける協力が

存す。根本的現象かあよと認め

らぬ。

口民社会の存の二見対立的な

協力が存在す。理由も五こある。

考元にもある。

口定は^{経済}征服者の意によるものである。

昔に^神征服者の希望による場合も

あよと^徳思はれりと同じ理由による。

権の支配関係権の権取関係

が甚だ自然に現れしものとも考え

存在

いれ。

一見^{この}相互的な強さを協定の協力

は権の自然な協力なのである。

生活の共同性としての村落 (家族-村落)
 支配の共同性としての口家 (都市-口家)
 生活と支配の族と村落
 支配と都市と口家
 (徳西)
 口家は族であり支配の連合体、口家の中
 に包々の集団が入れ替わるとして、口家が
 基礎係である。口家社会の中の一の集団
 として口家があつてはならない。口家は統治
 組織である。統治組織の中心が置かれた結合
 である。行政村の上には包々の集団が入れると同様。

家族、村落、都市、口家 (口家社会)
 (口家社会)
 家族の集合体としての村落
 (職場の集合体としての都市)
 都市の集合体としての口家
 村落 (生活の集合体) と都市 (職場の集合体) の
 右の二種の集合体は如何。
 村落は家族的、生活的
 口家は都市的、生學的
 村落は及、自足的、生活的、生活の根拠
 口家は及、社会的、支配的、支配の根拠

(一一一五)

種であらうが故に、口民記を口家と表す、
すゝのは適者である。次の様な記号の
枠の系列がある。

家族、村落、都市、口家

特に村落村社としてとり家と
可なりである。

生活の統一性としての家族

自足的な家族

左の統一性としての村落

社会的な生活の家族

その統一性としての都市

家族の統一性としての口家

(口としての都市の統一性としての口家)

農村と都市の協力の秩序保持
者としての都市口家

口民社会の上に集積する。集團の一
つとして口家がある。是が多量的口
衆海は決つていふのである。口家の
上に集積する。集團のついに口民社
会となる。勝るものがある。基
礎を有するのは口家である。他の
文化は社会的統一はその上に重
積してゆく。基礎は口家
である。口衆の上に統一の文化は
社会的統一が形成される。

経済のあのアソシエーションの上には他の種々のアソシエーションのなかで最もシロキニシロキの
ことをアソシエーションのなかで最もシロキの
中のアソシエーションのなかで最もシロキの
例はアソシエーションのなかで最もシロキの

コミュニティーとアソシエーション

マキーンハートの基本的地域結合としての
のコミュニティーとしての目的の結合としての
アソシエーションのなかで最もシロキの
七目的の結合としての考えへ、そして口泉
対すよ。

概見によれば基本的地域の結合と
そのは具体的な結合と村郷と
都市と口泉以外にはない。

これからのものは本来行政組織と
して発生したものであつて、その上に
称々の自然的な交流が加はり
それを修正したものであつて、

14

故に行政近隣

行政村

行政都市

行政口家に対して

自然近隣

自然村

行政自然都市

自然口家を取れといふ

一見考えらわぬのは自然が先で行政が後の様であるが、これはその逆であつて、

行政近隣から自然近隣へ

行政村から自然村へ

行政都市から自然都市へ

行政口家から自然口家へ

いふ

（てあるから）

五人組は行政近隣は別の處に

あり存續し自然近隣となる。

江戸時代の行政は法律上の組織

行政が第一で行政が第一でない。行政が第一

加ふるに行政を去るは行政を去る

行政の第一でない。行政が第一

行政の第一でない。行政が第一

行政の第一でない。行政が第一

行政の第一でない。行政が第一

行政の第一でない。行政が第一

行政の第一でない。行政が第一

行政の第一でない。行政が第一

行政の第一でない。行政が第一

行政の第一でない。行政が第一

行政の第一でない。行政が第一

行政の第一でない。行政が第一

私の研究対象は

(自然) 村落

(自然) 家族
(自然) 近隣

(自然) 都市

(自然) 人口

の事をなした。

協力ははぬ在りか。人の力は一人の方以上
に有りはじぬ。

力の協力の相手は悲しく最初は親子
であらう。子か一人前になつた時を水
と競争相手又は敵とせず。教へ子
の延長として何年か何月か共に生
活した時か人の協力の発端かはずま
つたであらう。

協力の最初の相手は兄弟であつたか
と知れぬ。夫婦であつたか知れぬ。
性の為の結合が中止して、時の夫婦の

協力も考えぬ。然しこゝには
此の表裏論と同様、政治の理論は
多岐にわたるかも知れぬ。

現代日本文化の発展と生活の型

『文化の重複、多様、発展の過程』

一代毎に及んでゆく。生活の型は経験
の重複がなく、発展もあつた。人
以外の動物の生活が分れてゐる。
人に経験が重複し、生活の型は
何年かか。#

居住の固定が是つた。おし好
民族には文化の固定も発展も充分
にあり、おし好。少くとも遊牧的流
浪の生活より、居住の固定は文化
の多様性有利である。居住の固定か一
代で決り、夫婦、家族より、永續性の

家族

より直系家族又は同族はより多く文化を高積し好む。然し同族家族は無限に拡大するものではないか。居住構造等の異作的連設技術が是れに伴はるかたうし今では同族家族はやかたしい運命をその内へしつ居た。家族構造が一定の形式を有し居る。夫婦家族は無限に存続し好む。家族型である文化が高積し好む。家族型である。文化と云って云つた事か、文化の

語を財産と書か換之とよい。

財産が一代で亡い。 (夫婦家) 漸次大き

くなる女やかて亡い存け地付下す

ぬ宗族 (同族宗族) に対して財産

は無限に増大し多様し得る宗族と

おしては直系宗族以外にはない。

その意味で直系宗族は甚だ好妙に

出来ていゝ宗族である。

節節は一代毎に継ぎが中絶し子

に継ぎは継ぎがある。もしも云はば

一人前になる迄の継ぎである。一人前

になつてからの生活の仕方についての継ぎは

死子の同じ家^{（家）}にない。一人おれをたう我子

は敵でなくとも競争相手である。

釣らわかれを^{（セ）}鯨の鯨跡はとこい。別の鯨^{（セ）}

に横にも付わくやい。故に魚をくれば

匹^{（匹）}も同所不釣らあ、おれい。

奥の世界には横に友人知人の事にも

知れ親の回にも一人の^{（人）}鯨跡は他の一人の

鯨行動には各同好である。だが、初

物はいつまでたつても初物である。人のか

初物より優れつものほ一人の人の鯨跡

か他の人の知物にいまめをたう。

詰房をなうたりするかとである。前に行く

昭法紙我ルおけー^ハ口民生活の躍進也

大きなものがあったが、最近にかけ、口

民生活の躍進はなれ^ハ口^ハ躍進す。

実業の格^ハあ^ハ。

格^ハ同化、共同化、経済化、合理化の急

激な成長と云い、うまよ^ハ。

華には一丸す^ハりない。私等は今これを

身近かに感じ^ハてい^ハ。口民生活の躍

すぶつてい^ハよ^ハは何か。急激な産業

の発展である。その産業の発展は、

序をかえ^ハてい^ハよ^ハは口家統治の活動

である。口家統治の活動がどこまで

進んだか、秩序を任^ハす。口民生活

にかける、これに伴^ハう格^ハ急^ハ激な

躍進と云い、うまよ^ハ。

口家が二の急激な産業発展と云い、伴^ハう

昭法紙の急激な躍進に對して、口^ハ躍進す。

私等は深くこれを

23

見つけぬと行かぬければなすめ。日本の元朝
宗元に対して深せし水石キ。堅の研究目録
である。

口民そのの形の協力が行は
れ、その協力の相互に細かな

録事かある。そこには書紙と云はれ
協力もあつた。各院と云はれ、協力も

ある。その協力の型もその
まゝに認めながら口民を元朝の
秩序を保つていふのが口民の統治
であつて、口民は口民の統治を存たに
もつたが、口民承継の限りにも

達すれば、将来は予測不能なる
口民の発展と秩序の維持
也。現存日本の経済的状況は、今こそその
研究に余念あり可からざるなり。

21

ソーシャルワークの技術指導者としてミニ
テイーオーがニゼーの同位とが都市
社会學における應用研究の二大領
域で應用の外に社会學がある。これが
アメリカでも都市社会學の構成であ
る。アメリカ社会學は外にマス・ラミを
社会學一般の外にミニである。

をさへも米口の都市社会學の教
育に満足し得ないか。皆が同技術
者になつておいて都市生活に役立つ
事はたしかである。(ミニニエーオはミニニエーオ、ミニニエーオはミニニエーオ、ミニニエーオはミニニエーオ)
アメリカの大企業は、ソーシャル
ワークに組織的知識を求むことか。
ネーバーズトは自然の本行政的かニ
後以外にはありはなし。恐らくそれは
行政的ネーバーズトである。日本では
水か忍ぶより軍口の的を射る様
態をしようとするか大抵である。
た。米口はこれを日本の子術
に求め、自身の軍口の組織に
利用せんとし、このため敗戦

の日本には直ちに廃止する教
指令した米口が今自口にも
を成せしめんといふのは不
フントか如何に好妙な組織的
筆口の統治組織として活用
のゆゑあかた敗戦日本を洗
時は、さう見定めながら、あ
ネーハリストをコミュニケー
都市をコミュニケーと解した
政策時代コミュニケーがせし
を社会福祉学の研究内容
とするのは先取である。コミュニ

トカセーソンは豊村にあるよき
る豊村のコミューンオカセーソ
ンオは神跡出ましかるを
ま、都市に適用するのは各魂であ
る。都市女コミューンオカセーソ
る。いにもオカセーソトカ
オカセーソとオカセーソに大
富を存すの
福は仲好である。
アメリカの豊村のコミューンオカセー
ソが日本の豊村に適用されるの
は、オカセーソオカセーソ
カ流にコミューンオカセーソの

天

30

導習程
が適
甲と水とのほ
乙と水との
ぬ。

社会学
社会学
社会学

social organization
social welfare
social planning

都市社会福祉学教育

今日の都市には様々な社会福祉技術が
加わって来た。また、その中でも、

強く成長しつつある。現代都市に人

を技術者は、決して山崎門技術者とは

異なる。社会福祉の生活系種

医療の保健、職業紹介指導

職業教育、~~新~~見所、養育院

若老院、不登少年、~~也~~児童

の生活指導、就職指導、~~質~~質屋

の経営、

失業者への指導、アセスンのための土木

工学を必要としたりする。また、その中でも、

引

かくの如き様々の分岐の事、技術等は
都市生活の成否と共に伴ふ。

これは共同生活の如くか、如く

す、都市の成否と共に伴ふ事

である。此の如く共同生活を

つげよと云ふに其種がある。

私をして上げしおれば、明日である。

コミュニティは団体化し、次の様に

立派である。

此の種は、社会の秩序維持のため

統治するの一部分である。

此の種は、同じ統治機関の一種

てある。

福祉教育は職業教育の一種である。官立養成教育の一種である。今までの福祉教育は、^{精神}心身ともに共同生活とか愛りとか善悪とかに結びつけず、ただ子に安んずるだけであつた。札幌で書いた如く、社会福祉論は左様な意味で、^正正しくなければならぬ。

今津浪の様に都市を成長し社会的秩序を乱す現象が益々多くあり、^{生活}生活高度化の所

33

自然原義の行政原義の
發生と統治法

原義の統治法は自然原義の
政治より自然近隣集團を
考へてその原義が自然近隣集團
は太古から今までつゞいてゐるが、
自然近隣集團は人と世に政治現
象から考へて政治と結合したものだ
であらう思ふ。近隣集團は常に
政治が作り出したものと思ふ。統治の
上の近隣は必ずしも政治の増
作に於て政治近隣の發達の
自然近隣が存続してゐる。

中世の頃は政治近隣はなかつた自然近
隣集團はあつた様である。古い行政
近隣集團の残骸の上に出来たもの
あつた。

近隣集團、その他一般に東京協会の
集團は行政的集團としてのみ
生ずるとは云へぬと云ふ。行政的自
由といふ意味は、可成容易に
り人の自由を拘束するものではない。
近隣集團に限らず一般の東京協
会の聚會を行政的措置による
おして自然の成り行きは是か否かは

と云し困難なるが、多いであらう。

行路の成りし町村を併せると、自然

界の内には実成すが、自然林の成り

や互の自然の各條を容易に出来ると

のてゆ言ひ。

コミニシカイ（オリーガセ）の行路に

に計画し設置する可からざる。

在来の統一を不統一のと思ふ可

きで、作らば、地方間交流の合理的

統一、即ち交流路線の空間的統一

性の認識と、その合理的なコミニ

シオン（オリーガセ）の基礎に在るべき

31

である。

コミュニティーはあつたのではなく作つたのであると云ふ見方が最も合理的である。

政治的交渉の統一がコミュニティー形成の基礎であるが、それは政治的根據

の上になつたのである。逆は政治的統一

は是の他の社会的文化の統一の原

因となるものである。行政の場合はさうである。

政治は文化の統一に成立するが、又政治の上

に文化の形成がある。

的統一を成すべく努力す。

(十一月五日)

合理的隣組

近代都市の隣組に合理的を考へる
人があつた。思の滑なまである。隣組の

仕事は、火事と坑坊の共同設備

である。火事には各戸火の用心、防火

處置以上に隣組で出来たりはあつ

た。水溝でも困窮し消化ポンプの運

路を考慮し、この外には都市清潔

力と火災保険加入による防備の

よ。近隣に何かあるか。泥棒の

めは各戸戸締を合理的に戻す

べき以外にはあつた。また左

金などを設置しなくす。

疑婚の葬祭の共同は余は先年
時。レイヤータイムのためスホーフも
養関係もつと店の公禁場下
見おさすかてある。

所北と自警団を維持する金下交
番の一つを設置したうよ。自警
団は何の活動もしてつ存しない
用いよう。経路係の共同の暴力団
としか思えぬ。戦争や内乱用の
政府の親兵隊である。

習字期の人類学的意味

習字期になつて生活資料を両親が供出し
食ふ心配なく習字する日か出来るのは夫
婦家族におりとも知り。夫婦家族を
生物学的家族と呼ぶ動物に比ぶれば
本能の家族と降すとなりてこれほ
澄んであつて、動物をうば、習字期に
入るや、既に子女と同居を見たりてあ
らう。習字期に入つて成人の業に程少し
衣食の心配をす、仲業がない夫婦家
族は遙かに動物の世界より遠ざか
い。習字期の社会位を両親が控
供する程になつた時より文化の成長

は物事の世帯と人同の世帯をあたやかり
いすは空をたてあう。まして直子京社
か書物にかしは富の言積を生し縁聚
の言積か用連俄かに加はるてあう
3/0

一一一〇

02

よって

に一周はそれ自体の必要を生かした
に因定してしまつたであらう。

夫婦家柄が直系家柄（後）に成長し先
は者急の発展と考へられ。

一三、一〇 就寝前赤上で

国家社会学の整理構想

一 方法論

二 国家社会学の歴史の批判

三 統治の構造と機能 法別と武力

四 国民社会の形成と協力の秩序維持

五 人口配分と一人一人の生活目的

六 生活別機能の配分と都市

七 生活構造の機能

八 社会構造の機能

九 国民文化の進化と生活の不安の不安定

十 法別と武力の承認の限界

アノミと大衆

外 二 座席上 不意の

国家の制度が先で国民生活が
法律は社会生活の事実の上に制定
されて行くものと考えたいか
否か。国家が考えた理想によつて
制度が制定される国民生活を
引こつてゆくのが国家の正し
行か方であらう。子供の成長の
現状に應じて服をつくり、それが
服が子供の体に比して小さくなる
すべからず改めてその時の成長し
た体に順応して衣をつくること
をいふか。由緒ある衣を考へら
れど、自然に成長するものは

口良程そのものであつたその成
比に厚に感じし制敵か制寇される
とのみ考えし事なからず深は
を予てたひ。

ブラチヤの首都建設はブラ
チの口良程が植民地性格を
一掃した。又は内口の民を
の土地資源困窮の為に口の中
央部の不毛の地に首都を建設
した。今オこの首都リオデ
イの快道を先法になれし。た
人達し市民達もブラチヤの首

京都ははたして都府である。その水をおし却て大統領館が國家百年の大計からそのを設計した。美術家も建設した建物など何んか其の特色の不便不台現があるが此城を建てよう。

け北を首都かここに在るも此止何世死かこの首都を中心にする。此の口民生活はついで知くである。其戦後家族制度の改正に際して法律が若年の口民生活の平均より先はして民元化する。其に不安

を感じて私はその好しき法律家
若造のうわづら程私論に乗か
れよ口良こそ迷惑な話と出つて
いたが、凡そ政治はいつの時代い
し名うあよのであらずと今では
思つてゐる。政治は口良より先
に述べたので、口良のあとを述よ
うとばかり。政治家は一番先の
理想家、社会運動者は百歩先
の理想家、口良は鈍電で社会
運動を政治家に率導されて
よやく歩いてゐる格好だつてゐる。

口底はアツシエーランの1つで
ほあよか コミュニティーのしんをその
よりのせつ祭屋の道をあいて
わあであよ。

十三年五月

支配形態の分類

マクスウェルは支配形態を

1. 合理的

2. 傳統的

3. カリスマ的

各分は検討の余地がこの

分類には強さがある。マクスウェル

は口家統治における統治形態

の支配関係等を考えている。これは

あくまで口家統治の中にあるものの

支配関係はこんな単純なものである

ではない。